

現場訪問

●視覚障がい者自動車運転体験

視覚障がい者の方々に、自分で運転する喜びを感じてもらおう

4月9日、10日の両日、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ(以下、ASTP)で視覚障がい者自動車運転体験ツアーが開催された。このツアーは旅行会社のクラブツーリズム(株)(本社・東京都新宿区)が主催。同社バリアフリー旅行センター支店長の湖山知弘さんが企画した。湖山さんは「8年前、あるツアーに参加した視覚障がい者の方から『一生に一度でいいからクルマの運転をしてみたい』という夢を聞き、何とか実現させたいと思ったのです」と話す。

今回の体験ツアーには8名が同伴者とともに参加



しかし、受け入れてくれる会場がなかなか見つからなかったそうだ。そして5年が過ぎようとした時に、茨城県西自動車学校の協力が得られ、初のツアーは同校で2010年11月に実施された。当時のことを、茨城県西自動車学校代表取締役の塚田秀紀さんは「視覚障がい者の方の夢を実現する役に立てればと、協力

を申し出ました。心の底から『運転がしたい』と願っている方々に指導するのは、私たちにとってもうれし



インストラクターが正しい運転姿勢などについて説明した後、外周路を使って慣熟走行を行う



いことでした」と振り返る。指導に先立っては、校内で教習指導員と湖山さんがアイマスクをして、同乗者からの指示のみの運転を体験。どのような情報を伝えれば、視覚障がい者の方が安全かつスムーズに運転できるか、検討を重ねたという。ハンドルを回す時は、視覚障がい者の方が目ごろ、物の位置を確認する際に使う時計の針の位置で指示し、手を動かしてもらおうと正確に操作できることがわかった。ASTPでは、こうしたノウハウを受け継いでツアーを受け入れた。



インストラクターの指示に合わせて、受講者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作して、パイロンスラロームなどに取り組んだ

まず、広い外周コースを使い、トレーニング車両に慣れてもらうための慣熟走行を行う。ASTPのインストラクターが助手席に乗り、運転中は受講者にたえず速度やハンドルを

●ツアーに関するお問合せ先: クラブツーリズム(株) バリアフリー旅行センター TEL 03-5323-6915

TOPICS 1 クミ化成(株) Honda関連企業のインストラクターが高等養護学校の生徒へ自転車教育を実施

クミ化成(株)(本社・東京都千代田区)は自動車内装部品の研究開発、製造、販売などを手がける企業である。同社名古屋工場(愛知県瀬戸市)では、ホンダ・パートナーシップインストラクター(以下、HPI)を養成。HPIが核となって社内や周辺地域の交通安全普及活動を行っている。4月9日には、HPI3名が愛知県立春日井高等養護学校で全校生徒162名を対象に交通安全教室を開催した。

クミ化成(株)名古屋工場副工場長の青山敦男さん(HPI)は、「高校生年代への交通安全教育は初めての取り組みです。企業の社会的責任として、周辺地域の方々に交通安全を啓発していくことは、たいへん重要だと位置づけています。そうした私たちの思いを高等養護学校の先生方に理解していただき、実現することができました」と、開催の背景を話す。春日井高等養護学校では生徒の約半数が通学に自転車を利用して



生徒の代表者がシミュレーターを体験。他の生徒は大型スクリーンでその運転状況の映像を確認する



していることから、ホンダ自転車シミュレーター(以下、シミュレーター)を活用し、生徒に危険予測能力を高めてもらうことをめざしたという。最初は座学。青山さんが体格に合わせた自転車の調整方法から、正しい運転姿勢とブレーキの使い方、自



生徒たちに質問を投げかけながら座学での説明を進めるクミ化成(株)名古屋工場副工場長の青山敦男さん



最後に生徒の代表者がHPIに感謝の言葉を述べた

転車に関わる法規を解説していく。また、学校周辺の見通しの悪い交差点の写真を見せながら、自転車の交通事故で最も多い事故類型は出会い頭衝突であることを説明。信号機のない交差点での出会い頭事故を防ぐために、交差点に入る前に止まって右・左・右、そして後ろを覗いてから発進するようにアドバイスした。続いて、シミュレーター体験。生徒の代表者3名がシミュレーターを体験し、他の生徒は大型スクリーンに映し出される体験者の運転状況の映像を確認する。HPIの高砂良一さんと大幡浩志さんが、体験者が事故に遭ったり、ヒヤリハットした場面を再生し、安全に通行するためにどのようなことを予測すべきか生徒に問いかけながら、事故防止のポイントを伝えた。